

令和8年9月1日

ふじみ野市議会

議長 加藤 恵 一 様

議会運営委員会

委員長 山 田 敏 夫

議会運営委員会視察調査報告書

令和8年第2回定例会において閉会中の継続調査の申し出をした所管事務に係る特定事件の調査について、令和8年7月15日及び16日の日程で石川県加賀市及び能美市を視察し調査を実施したので下記のとおり報告します。

記

1 調査事項

議会活動の活性化について

2 出席委員

委員長	山 田 敏 夫	副委員長	塚 越 洋 一
委員	板 倉 篤	委員	鈴 木 美 恵
委員	川 畑 京 子	委員	小 林 憲 人

3 欠席委員

委員 近 藤 善 則

4 議長出席

加 藤 恵 一 議長

5 視察の概要

○石川県加賀市

加賀市は、平成17年10月に旧加賀市と山中町が合併し現在の加賀市となり、石川県の最南端、本州のほぼ中心に位置している。本市議会も参加する議

会改革を数値化する「地域経営のための議会改革度調査」のランキングでは全国上位の実績を長期に亘り継続している。また、加賀温泉郷と言われる山代、山中、片山津の3つの温泉地、九谷焼・山中漆器などの伝統工芸、日本遺産に登録されている北前船など観光資源も豊富である。305.87平方キロメートルの市域に、60,517人（令和8年7月1日現在）の人口である。

1 加賀市議会の構成

（1）議員定数18人

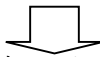
（2）委員会の設置

総務経済常任委員会、教育民生常任委員会、予算決算常任委員会、議会運営委員会、基地対策特別委員会、公共施設マネジメント特別委員会、不登校・ひきこもり特別委員会、議会活性化特別委員会

（3）議会事務局職員現員数9人（うち会計年度職員1人）

2 開かれた議会への住民参画の取組例

（1）平成23年の議会基本条例制定から現在までに女性議会、小学生議会、中学生議会、高校生議会・意見交換会、議会だよりモニター員制度、議会おでかけ教室、議会モニター員制度、オンライン意見交換会、議会アンケート（市民意識調査）を実施している。なお、議会YouTubeは再生回数が伸び悩んでいるため中止している。



①議会や市政への関心度の向上、児童・生徒、女性の視点からの意見の市政への反映を目的として開催する。

②子ども議員は、自分たちの声が市政に届いたことを実感する。

（2）議会だよりの改善は、市民モニター制度を導入し、意見を取り入れ、より多くの市民に手に取って読んでもらえることを意識して紙面に工夫を凝らしている。

①フルカラー化、ページ数を増やし強調箇所の太字書体の活用など読みやすさの向上を図る。

②表紙「届け！私たちの声」として市内の小学校、中学校及び高校の活動を写真などで紹介する。

③市民が参加する特集記事は、巻頭カラーで2ページ活用する。

（3）積極的に議会活動をアピールするため、小学校・中学校で「議会おでかけ教室」、議会報告会（議会おでかけトーク）など出前講座方式で活動している。議会報告会は、今年度から中学校区単位とすることで参加者の顔ぶれに変化があった。

3 政策提案する議会

- (1) 議会基本条例に議会は必要な政策を自ら立案、又は市長に提案することを規定している。

●議会提案による条例施行

- ①市民主役条例、ポイ捨て防止条例、地域医療を守る条例、乾杯条例、災害対策基本条例、いじめから子どもを守る条例、読書活動推進条例、デジタル技術の活用による持続可能なまちづくり条例、スポーツ推進条例

⇒執行部が一部改正により市の施策を盛り込んだ例もある。

●執行部への提言例

- ①柴山潟遊歩道整備に関する提言書、一次産業の振興に関する提言書、スマートシティの取組に関する提言書、観光地としての温泉地の維持・発展のための提言書、デジタル田園健康特区に関する取組についての提言書

4 オンライン会議

- (1) 議会基本条例の検証において、オンライン会議の導入を検討すべきとの意見があり、令和4年に関係例規等を改正し、令和6年能登半島地震時など適時開催している。開催できる条件は、大規模災害の発生時や感染症のまん延時のみである。

5 金沢大学法科大学院との連携

- (1) 「政策提言する議会」「監視する議会」「審議する議会」として機能強化を進めるに当たり、法務の知的資源を有する金沢大学法科大学院と連携・協力することで、地方創生に向けての政策法務能力の向上を図るとともに、専門的知見を有効活用する。
- (2) 大学としても法学研究科が有する法務の知的資源を積極的に提供し、自治体のシンクタンク的な立場で地域社会に貢献する。
- (3) 連携した取組内容
- ①大学院に出向き議長・副議長が講義する。
 - ②議員研修会に講師派遣を依頼する。
 - ③大学院生インターンシップを受け入れる。
 - ④議会提案条例等に関する専門的知見からの意見、助言を受ける。

○石川県能美市

能美市は、平成17年に根上町、寺井町、辰口町の合併により誕生し、石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、西部に白砂青松の美しい海岸線を有する日本海を望み、中央部には標高2,702メートルの霊峰白山から流れる手取川と梯川に挟まれた扇状地、東側には能美丘陵と海・山・川・平地の自然に恵まれた地勢である。

現在までに、議場システムを更新し、石川県内初となる電子採決の導入を済ませており、開かれた議会への取組を多数展開している。84.14平方キロメートルの市域に49,616人（令和8年7月1日現在）の人口である。

1 能美市議会の構成

（1）議員定数16人

（2）委員会の設置

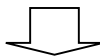
総務産業常任委員会、教育福祉常任委員会、予算決算常任委員会、議会運営委員会、広報広聴特別委員会、基地・空港対策特別委員会、議会活性特別委員会

（3）議会事務局職員定数6人（議長車運転手1人含む）

2 議会改革の取組について

（1）意見交換会・議会報告会の定期開催

- 議会基本条例を機に広報広聴特別委員会が主体となって開催している。
- 出前講座方式で、特定の団体に特定のテーマを設けた議会報告会を開催していたが、意見交換会に移行し、市民の意思を議会活動や市政に反映させることを重視した取組にしている。
- 令和6年から常任委員会の所管事務調査のテーマと意見交換会のテーマを連動させている。



①意見交換会で聴いた市民の声や協議結果を報告書に盛り込む。

②意見交換会の内容と政策提言に強い結びつきが生まれ、市民の意思を反映した政策提言が行える。

（2）議員間討議について

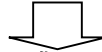
- 令和5年12月定例会で議会基本条例を改正し、「議員間討議」を条例に明記し、既に7回の実績がある。

【実績例】・令和6年度一般会計補正予算（災害備蓄品整備費）

・能美市営駐車場条例の一部改正

・令和7年度能美市一般会計予算（プレママ子育て
応援金給付事業）

- ・令和 7 年度一般会計補正予算（防災機能強化事業）
- ・令和 7 年度一般会計予算（新モビリティサービス事業）



- ① 討議結果を委員長報告に盛り込む。
- ② 修正動議、附帯決議、提言・要望などにつなげる。

（３）議場システムについて

- ① 石川県内で電子採決を初めて導入するなど、市民に開かれた議会、見える議会、分かりやすい議会、伝わる議会の取組が多数ある。

議場システム更新・電子採決の導入（R4.6）



県内議会で

初導入

採決結果を

一目で把握

- ✓ 音響・映像の機器を全て更新
- ✓ タッチパネルで一括操作
- ✓ 電子採決の市民への公開プロセス
 - 議場内は傍聴者用モニター
 - YouTube等の配信でも視聴可
- ✓ 課題：議場備え付けの機器のため
オンライン本会議に非対応

（４）映像配信について

媒体名	概要	コスト
Y o u T u b e	本会議のライブ配信 本会議の録画映像（終了後即公開） 予算決算常任委員会全体会のライブ配信	機器導入 約 1 0 万円
映像配信システム	本会議の録画映像（過去 9 年分）	年間約 1 2 7 万円
ケーブルテレビ	本会議の生中継 当日及びその週の土日の午後 7 時に再放送	議会 0 円 執行部が別途契約

- ① 本会議のライブ/録画が視聴可能になる。
- ② 意見交換会の模様も配信している。
- ③ 県内 4 位の登録者数である。（チャンネル登録者数 2 5 9 人）

《まとめ（各委員所管）》

（山田敏夫委員長）

加賀市議会は、小学生・中学生・高校生議会及び女性議会と幅広く取り組んでいた。なお、生徒の提案内容をもとに一般質問や委員会で議題として取り上げることによって、報告会の参加者に応えていく議会のとるべき姿勢が見られ参考になった。また、政策提案する議会について、9本の条例が議会提案で制定され、その中でも特に地酒の普及、温泉文化の継承を推進する「乾杯条例」は大変ユニークで地域性が感じられる条例で、我々にも地元の資源を見る大事な視点を与えてくるもので大変参考になった。更に、執行部への提言について 常任委員会や特別委員会等で議論された内容について、執行部に提言書として提出され、このことは「議会活動の成果」として参考になると考える。

能美市議会は、議員間討議を令和6年6月から5回実施している。討議の結果については、討議内容を委員長報告に盛り込み、修正動議、附帯決議、提言・要望などにつなげている。議員間討議の効果として、議案等への理解や考えを深めることができることや、市民への説明責任が果たすことができることなどが挙げられる。ふじみ野市議会においても工夫すれば、議員間討議の議題は少なからずあると思うので、本格的な実施に向けて検討していくべきと考える。また、議会だよりが市民に親しんで読んでもらうための紙面作り、特に一面について工夫が見られた。また、フルカラーでの紙面作りがなされており、本市議会もフルカラーにしていくことを検討すべきと考える。

（塚越洋一副委員長）

加賀市議会の市民アンケートは、ぜひ本市議会でも取り入れるべきである。市内の小・中学校へのお出かけ教室については、将来を担う子どもたちの主権者としての意識を醸成するためにも放課後を活用するなどして実施してみてはどうかと思う。

執行部に対する提言については、各常任委員会でテーマを絞り、意見の集約化を議員間討議によって具体化し、P P D C Aサイクルを組み合わせることで、本市議会でも試行してみる必要があるのではないかと。執行部側も「答弁したら終わり」にしないためにも、よい議会論戦を政策形成過程に生かしていく視点からも良い刺激になるものと考えられる。

オンライン委員会会議運営については、大規模災害時などの事態に際して、準備・訓練しておくことが必要である。大学との連携協定では特別講義の実施など更に深めていくことが必要ではないかと思う。また、本市においては、東上線沿線の大学などと、政策活動などでの協力関係を深めていくことも必要と考える。

能美市議会は、出前講座方式で意見交換会を開催し、市民の声を反映した政策提言が行っているとのことで、本市議会も気軽に取り入れたい。

議員間討議の効果としては、新たな課題や提案を見出す可能性が生まれ、議員個人や会派だけの意見でなく、議会が二元代表制の機関としての見解を主権者としての市民に対して発信することによって、地方自治体における議会制民主主義の到達点が一步進むことになるので、本市議会でも積極的に取り組むことが求められていると言える。

議会広報紙がカラー化で見やすく、写真も多く市民が主役になっている雰囲気を作り出している。本市議会広報紙もカラー化は早急に実施すべきではないか。電子採決、議場システムのリニューアルについては、一人一人の議員の態度表明が一目瞭然に分かる効果があり、音響・映像機器を全て更新したとのことである。本市議会では、答弁や議員の発言が人によっては聴き取りにくいという難点があり、改善できるものなら早期に改善すべきである。

(板倉篤委員)

加賀市議会は議会改革度調査で全国トップ10に度々名を連ねる議会であり、市民に開かれた議会、積極的に政策提言していく議会の実現に向けて力強い取組を行っている。小・中学生の議会傍聴や子ども（中学生）議会、高校生との意見交換会を毎年開催しており、生徒からの提案を一般質問や委員会で取り上げることで市政へ参画している実感を持ってもらうことを大事にしている。また議会の取組を評価するためのPDCAサイクルを導入しており、これは各種事業の進捗や効果を把握し次の改善につなげるだけでなく、実施の背景や過程も記録することでその後の振り返りや引継ぎにも有効であると感じた。

能美市議会でも市民の声を聴くことを非常に大切にしており、意見交換会を年に4回開催し市民の意見を議会活動や市政に反映するべく取り組んでいる。また動画配信にも力を入れており、本会議のライブ／録画配信のほか、意見交換会の様子をダイジェストにして配信しているとのことだった。地元紙やケーブルテレビとも連携し記事掲載や中継放送を行い、活字やテレビを情報源にしている層にもアプローチしている。

両議会の議会広報はともにカラー印刷を採用し、写真やイラストを多用するなど読みやすい紙面となっている。内容の特徴としては表紙に市内各小中学校の声や地元高校生の絵を掲載し、見開き特集ページでは意見交換会の様子や市民の関心事を持ってくることで市民に読みたい気持ちを起こさせるものとなっている。

これらの取組は本市議会においても大いに参考になるもので、すでに取り組んでいるものでも改善していくための示唆に富んだものであった。本市議

会が市民にこれまで以上に寄り添い、市民の声を市政に届けられるものとするために、今回の視察の成果をひとつでもふたつでも形にするために力を尽くしたい。

(鈴木美恵委員)

議会運営委員会の視察として加賀市議会、能美市議会を訪問し、両市の議会運営や議会改革への姿勢から多くの示唆を得た。加賀市議会では、議会活性化の取組や広報広聴活動を通じ、市民に開かれた議会を目指す姿勢が印象的であった。特に、議会報告会や議会だより作成における編集の工夫、分かりやすい紙面づくりは、市民との距離を縮めるうえで大変参考になった。

一方、能美市議会では、電子採決の導入など、議会D Xを積極的に進めており、効率的で分かりやすい議会運営への意欲を強く感じた。また、議会だよりをテーマに意見交換会も実施しており、議会活動を市民へ分かりやすく、興味を引くよう工夫していた。

今回の視察を通じて、議会改革は単なる制度や機器の導入にとどまらず、市民に信頼される議会をつくるための不断の取組であると再認識した。今後は、両市の先進的な事例を参考に、本市議会においても市民参加、情報公開、議会運営の効率化に加え、議会だよりの充実にも努めていきたい。

(川畑京子委員)

加賀市議会では、議会基本条例に掲げる「開かれた議会」「市民が参加する議会」「政策提案する議会」を具体的な活動につなげ、継続的に議会改革を進めている点が印象的であった。特に、子ども議会や高校生との意見交換会等で得た声を、一般質問や委員会で取り上げ、政策へつなげる仕組みは大変参考になった。また、市民アンケートによる課題把握や、議員提案による条例制定、執行部への政策提言など、議会自らが政策形成に積極的に関わる姿勢も評価できる。市民の声を聴き、議論し、政策に反映し、その成果を市民に伝える循環を、今後の議会活動に生かしていきたい。

能美市議会では、市民に開かれた議会を目指し、意見交換会と常任委員会の所管事務調査を連動させ、市民の声を政策提言につなげる仕組みが構築されている。特に、議員間討議を制度化し、議案への理解を深めるとともに、合意形成の過程を示すことで議会としての説明責任を果たす取組が印象的であった。また、電子採決やY o u T u b e 配信など、デジタル技術を活用した情報発信にも積極的である。市民の声を聴くだけで終わらず、議論し、政策へ反映し、その過程を市民に伝える一連の取組は、今後の議会活性化を進める上で参考としていきたい。

(小林憲人委員)

加賀市議会は毎年の議会改革度調査において、全国上位を長年に維持している。その所以は、市民から信頼される議会を目指して、平成２３年に議会基本条例を制定し、議会改革を今日に至るまで、議会及び議員が「継続」「継承」してきたことである。細かな内容としては、議会だよりカラー化や議会ＹｏｕＴｕｂｅの活用、子ども議会の開催やロゴフォーム使ったアンケート、オンライン委員会を開催するための条例改正など、本市議会でも実施できる内容を、市民のために着実に進めてきた点である。

能美市議会は、議会改革度調査で３００位程度のものの、予算の分割付託を避けるための分科会の設置や議会基本条例の制定など、徐々に議会改革が進んできた印象で、視察対応をしていただいた３人の議会改革に対する熱量が大きいと感じた。とりわけ、ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルの総閲覧回数が２４,０００回を超えていることが際立って印象的であった。また、議員間討議もここ数年で７回を数えるなど、市民に対する説明責任を果たそうとする姿勢も印象的であった。そして、オンライン委員会を開催できるようにしていたり、電子採決を導入するなど、本市議会が取り入れなければならないことも再確認できた。

いずれにしても、両市議会において、市民が納得できる説明責任を果たそうという議会の姿勢や震災などの天災に備えたオンライン委員会の開催ができる取組が印象的であり、本市議会でもしっかりと議論し、取り入れなければならないと考える。